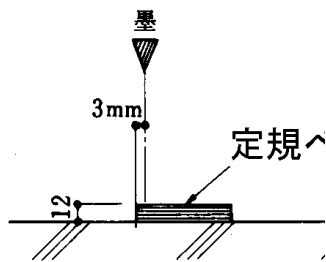
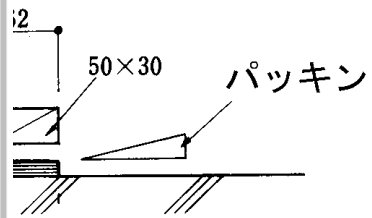


梁底は柱に乗せかけ

柱の根本



柱下拵え材



c . 梁の下拵え

(1) ベニヤパネルはできる
 なお、梁型枠の組立て方
 じとし、梁側はできるた
 し、側板を梁のコンクリ
 すので、図 2 - 5 の方法
 う)

(2) 面本を用いる場合は、

(3) 大梁の長さは柱と柱の
 また小梁の長さは大梁と

(4) 柱または梁の側板に作
 る。また作製した梁側板
 直を講ずる。

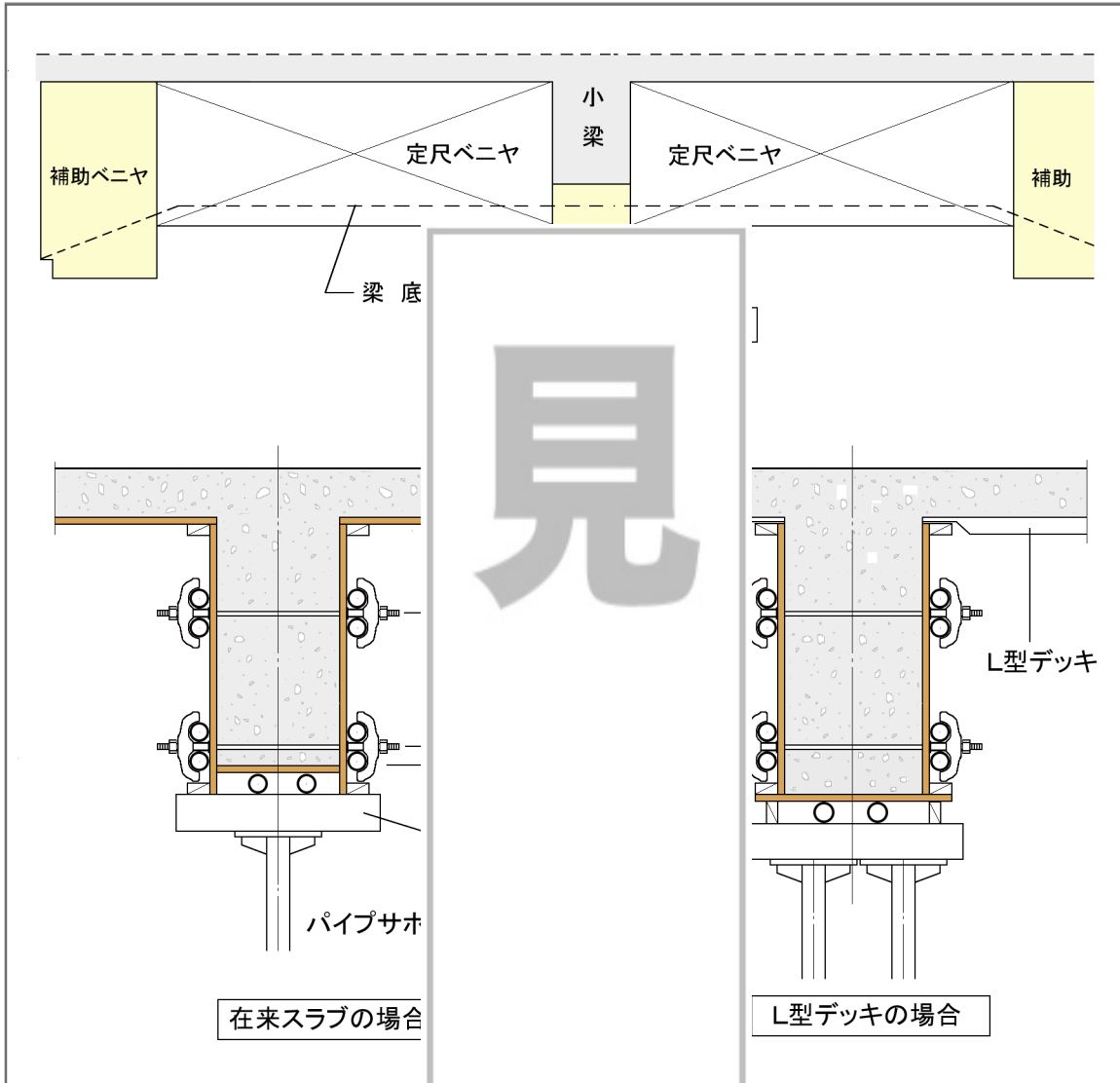
いで使用するようになる。

があり、梁底をコンクリート寸法と同
 と、梁底をできるだけ定尺のまま使用
 がある。一般的には側板を先に取り外
 型デッキの場合は図 2 - 6 の方法で行

両端は柱のせき板の上に乗せ掛ける。
 法とし、大梁のせき板の上のにせる。
 梁型枠（せき板）の外法寸法に合わせ
 栈木等で仮止めして変形などの防止処

見

本



2) 壁パネルの作製

- (1) 壁パネルの目的は転用作製し、パネル割付を考るので、桧木やベニヤ面が多いので、建込前
- (2) 移動、荷揚げ、据付けにする。
- (3) 外部パネルは階高よりまた丸セパレータの位置

- (4) 型枠の損傷を少なくし、また取外しを容易にするためハクリ剤を塗布しておく。ハクリ剤の選定はコンクリートに害のないものを使用する。

(5) 階段の下拵え

階高および段鼻によって、け込みと踏面の割付けを決めた現寸図(必ず担当責任者の検査を受けたもの)をもとに、側板の下拵えをする。その側板にもできるだけ定尺物を切らないように組入れ、陸墨と段鼻の返り墨は現寸図に基づいて必ず記入しておく。

。従って十分な検討打合せの上図面を並べて建込むため、また何回も使用する片が付着して全体の寸法に伸びが出る

る。え、変更がない丈夫なものを作るよう

た階高にも利用できるように作製し、きえるように検討し、下拵えのときか、

(6) その他の特殊型枠の下拵え (R 型枠等)

間違いを少なくするため、必ずコンクリート図および係員より検査された現寸図をもとにして下拵えをする。

3) 型枠組立

コンクリート型枠は、コンクリートを必要な決められた型に成型する鑄型である。

また、コンクリート打設後のこのため作業主任者は、あらかじめ木コン等の割付けを考慮してスリーブ、木レンガ等の設備を十分に行ない、手落ち手戻

見

a. 型枠組立の要点

(1) 型枠組立は、足場の組および配管作業と併用してに行なう。

(2) 型枠は寸法を正確に、コンクリートの側圧、打拵に組立てる。

(3) せき板はコンクリートに密着するように、すき間なく組

(4) 型枠の締結は、締付け用とする。

(5) 締付金物の位置は、組立時に取り付けに際して、あらかじめ

(6) 型枠の補強のためにサヤロープとタンバック

(7) 組立て作業は、組立て全体へと進める。

(8) 型枠足場、遣り方等他

(9) 地下部分の作業を行な

(10) 作業中は常に安全通取り付けもれに注意す

本

に配慮して組立てることが必要である。し型枠についてはベニヤの割付およびに検討し、またコンクリート内部に入るにように関連職種間との連絡、打合せを要する。

コンクリートに埋設する設備工事の箱、お職種間との連絡および打合わせを十分

に良く建入れるとともに作業荷重、コンクリートのひずみや、くるいが生じないように

に注意し、またセメントペーストが漏出しな

く、釘またはなまし鉄線は補助的な使用とする。

なお鋼製のタテバネがいでせき板に仮り止めしておく。

また場合は、同時にチェーンまたはワイヤ

をイクルとして部分、部分まとめて行き

に補強等はしないようにする。また支保工の安全を確かめる。

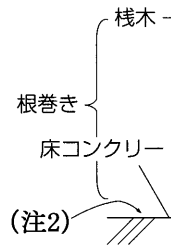
また隣接する開口部の手すり等の防護設備の

4) 建込み

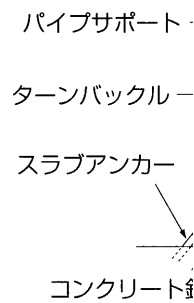
a. 柱建込み

- (1) 面木、目地、金物の取付け確認をする。
- (2) セパレーターの割付は、側圧を考慮する。
- (3) レベルの確認をする。
- (4) 地墨とせき板の位置の
- (5) 柱の建入検査はスラブ
- (6) 角締めを必ず行う。
- (7) ベニヤは、できるだけ
- (8) 柱型枠取付け前に必ず

壁型枠の根巻



壁型枠控え

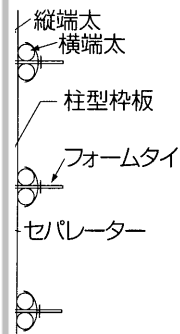


見

で使用するよう板取りする。

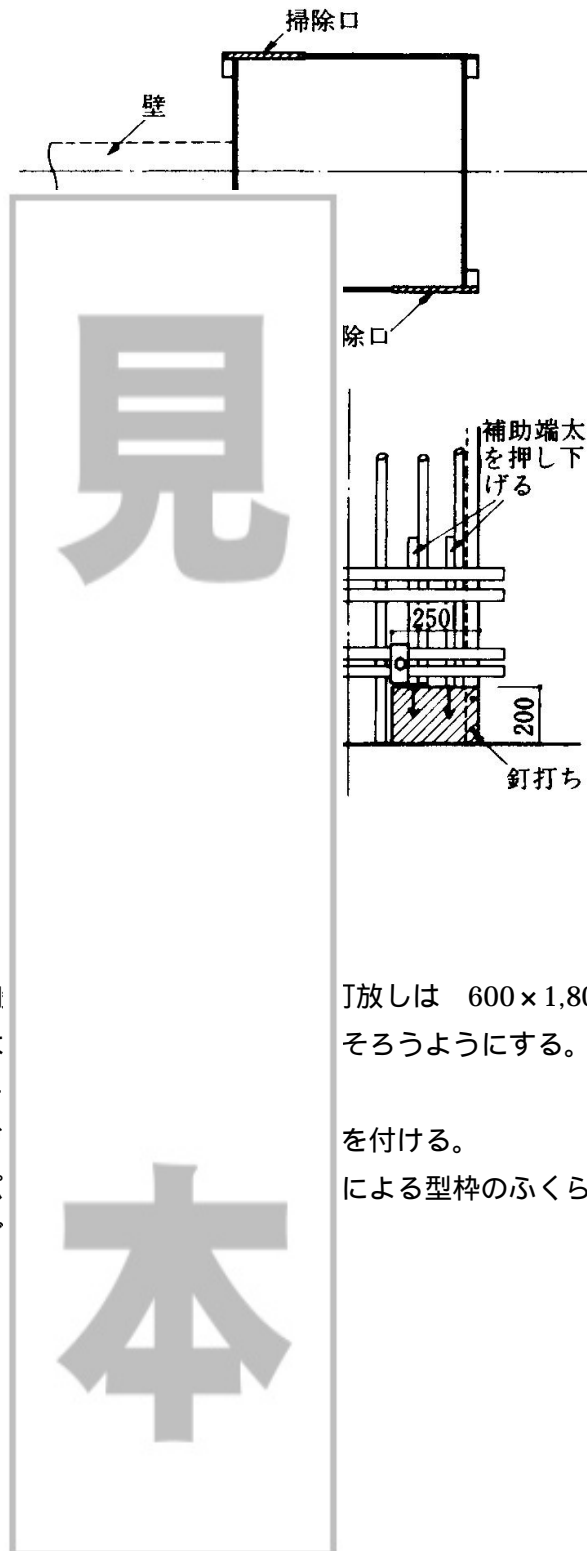
ルタル敷

本



柱下部の掃除口

掃除口の位置と 固定方法



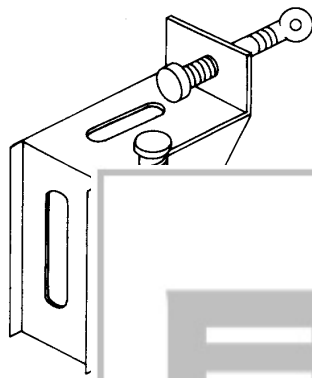
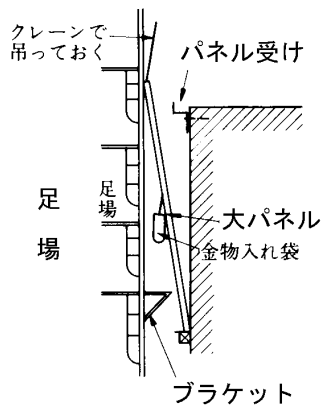
b. 壁建込み。

- (1) せき板の割付けは、一般
- (2) セパレーター割付けは
- (3) 開口部のレベル高さを
- (4) 面木、目地、木レンガ
- (5) フォームタイ際にはパ
- (6) 壁の建入検査はスラブ

J放しは 600×1,800 縦使いとする。
そろようにする。

を付ける。

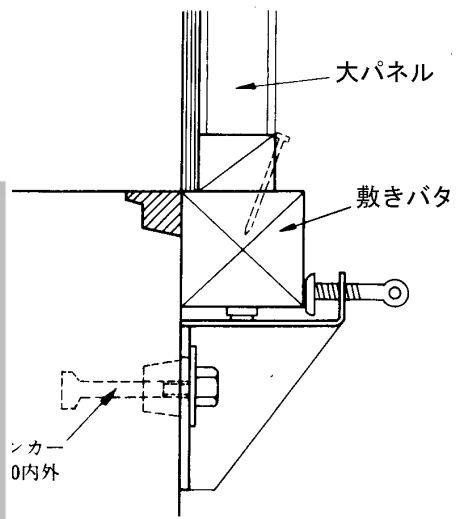
による型枠のふくらみを防ぐ。



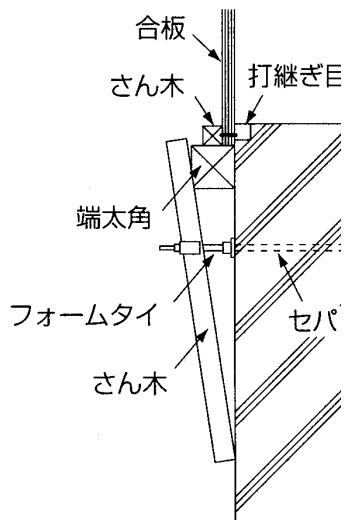
パ

大パネルをク

見

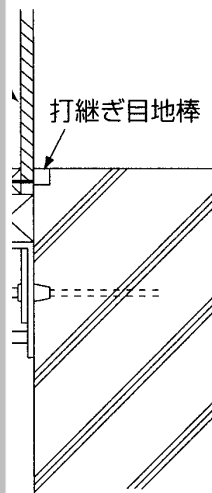


けにセットする



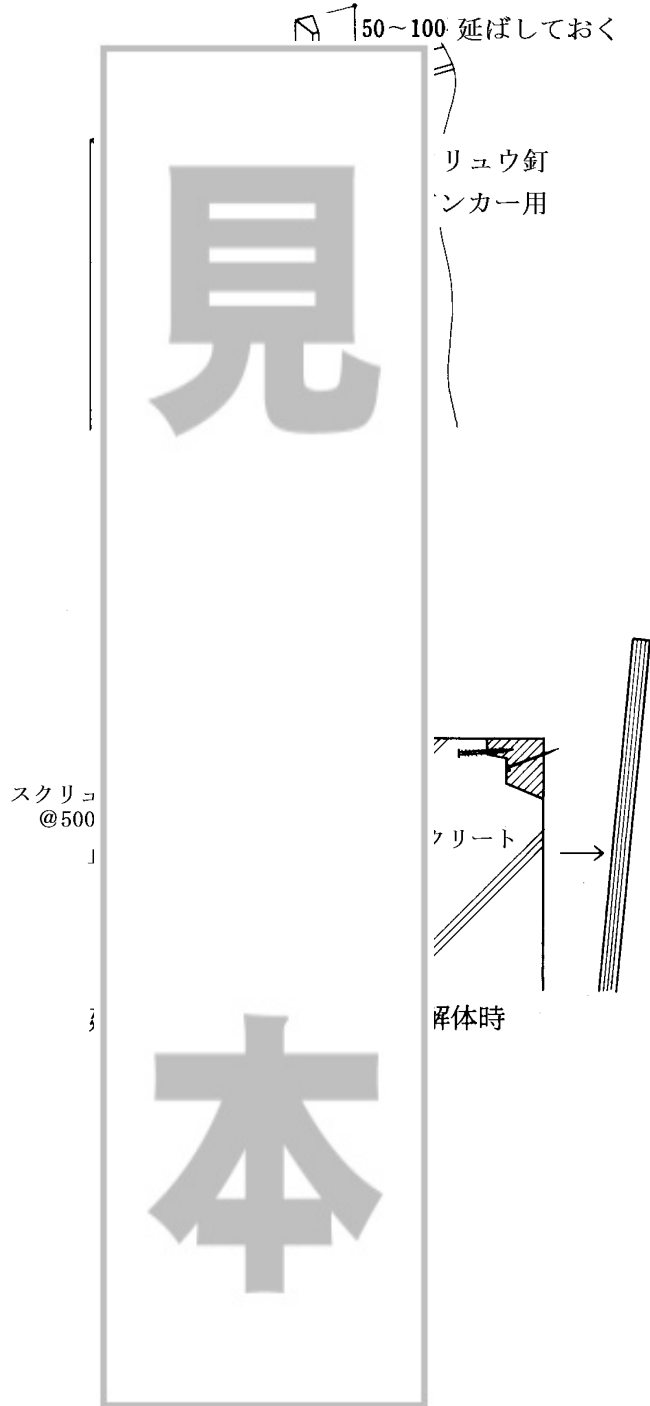
(a) 栈木

本

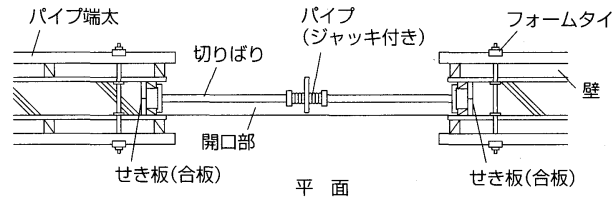


壁根巻き金物

目地棒取り付け

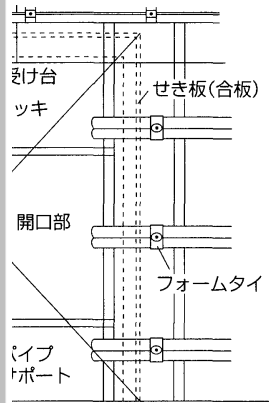


開口部



さん

見



c. 梁建込み

- (1) 全長寸法の確認を前も
- (2) 水平精度の確認は、ス
- (3) サポートの間隔は、支
- (4) 地組は梁の真下で行う

梁の支保工



クランプ金具

本

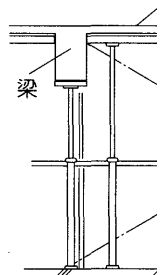
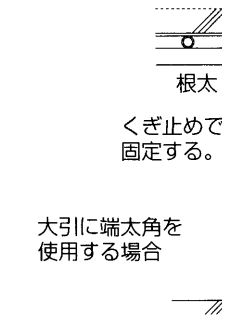
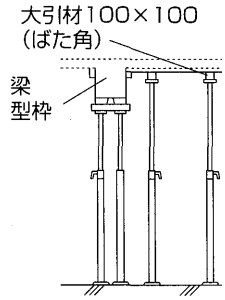
つなぎ：
2000mm以内
に支柱をつない
強する

(5) セパレーターの取付け

- ・ 梁底より 50mm の所に、1 箇所セパレータを取付ける。
- ・ 胴締めセパレータは使用せず、梁端太ボックス (KS 梁端太ボックス) およびビームクランプの併用により、梁側の座屈を防止する。
- ・ 梁揚げ後、聞き止めセパを 800mm 以内にとる。

d . スラブ型枠

- ・ 柱、壁、梁の建入れ、通り、内法寸法の確認を前もって行う。
- ・ サポートの大引、根太の割付けは支保工計算書の通りとする。
- ・ サポート高さ 3 . 5m を超える場合は、高さ 2m 以内毎に水平つなぎを 2 方向に取る。
- ・ せき板は一般枠においては古材使用も可とする。
- ・ スラブ型枠の高さはレベル調整する。



見

本

を用いて先端
する。)

枠

トンボ端太は床上で
釘止めしておく

-サポートは2列とする

合板パネル

根太 (丸パイプ)

大引
(受け金物で固定する。)

シーマメント
ジャッキ

大引にパイプ
を使用する場合

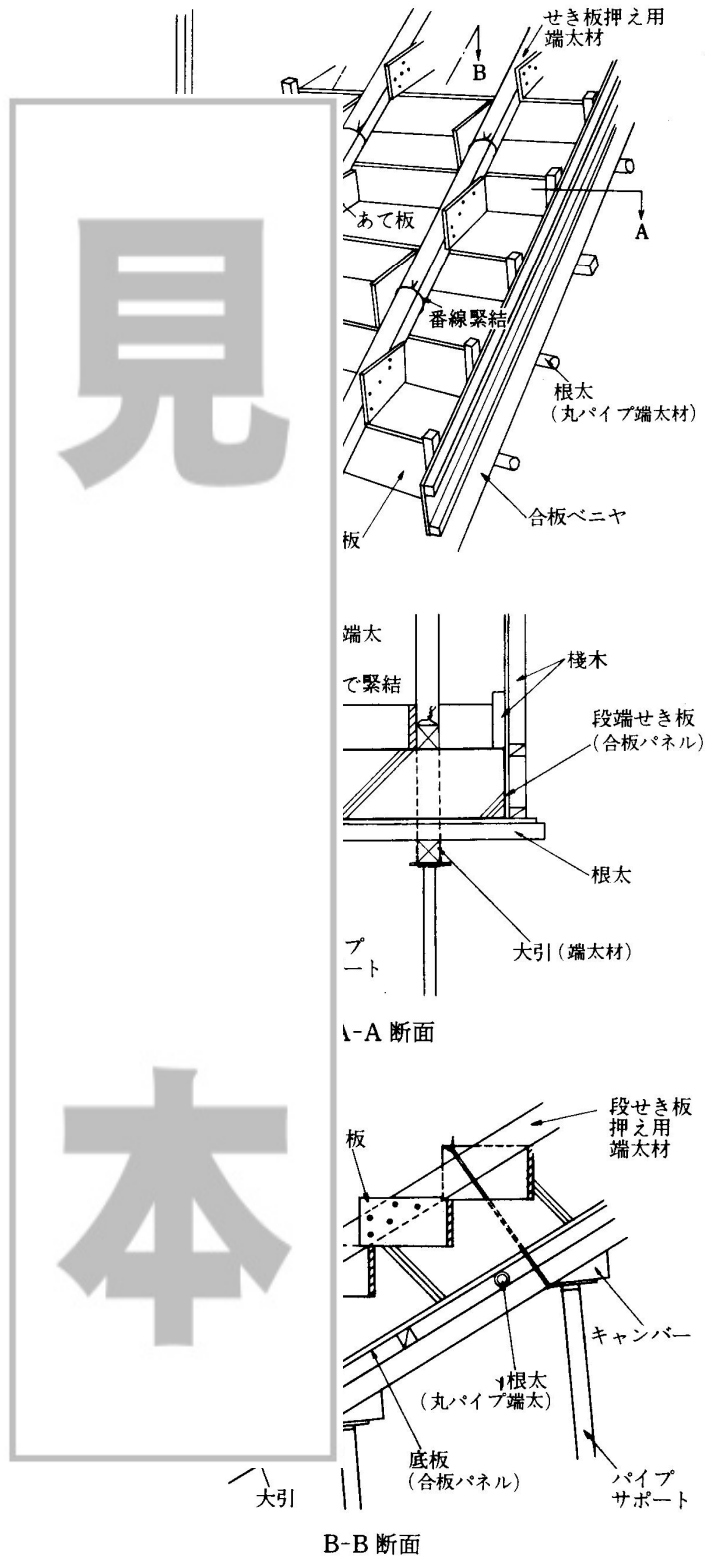
フサポート

水平つなぎ 丸パイプ / 使用)	2000以内	階高2500~3500
	2000以内	

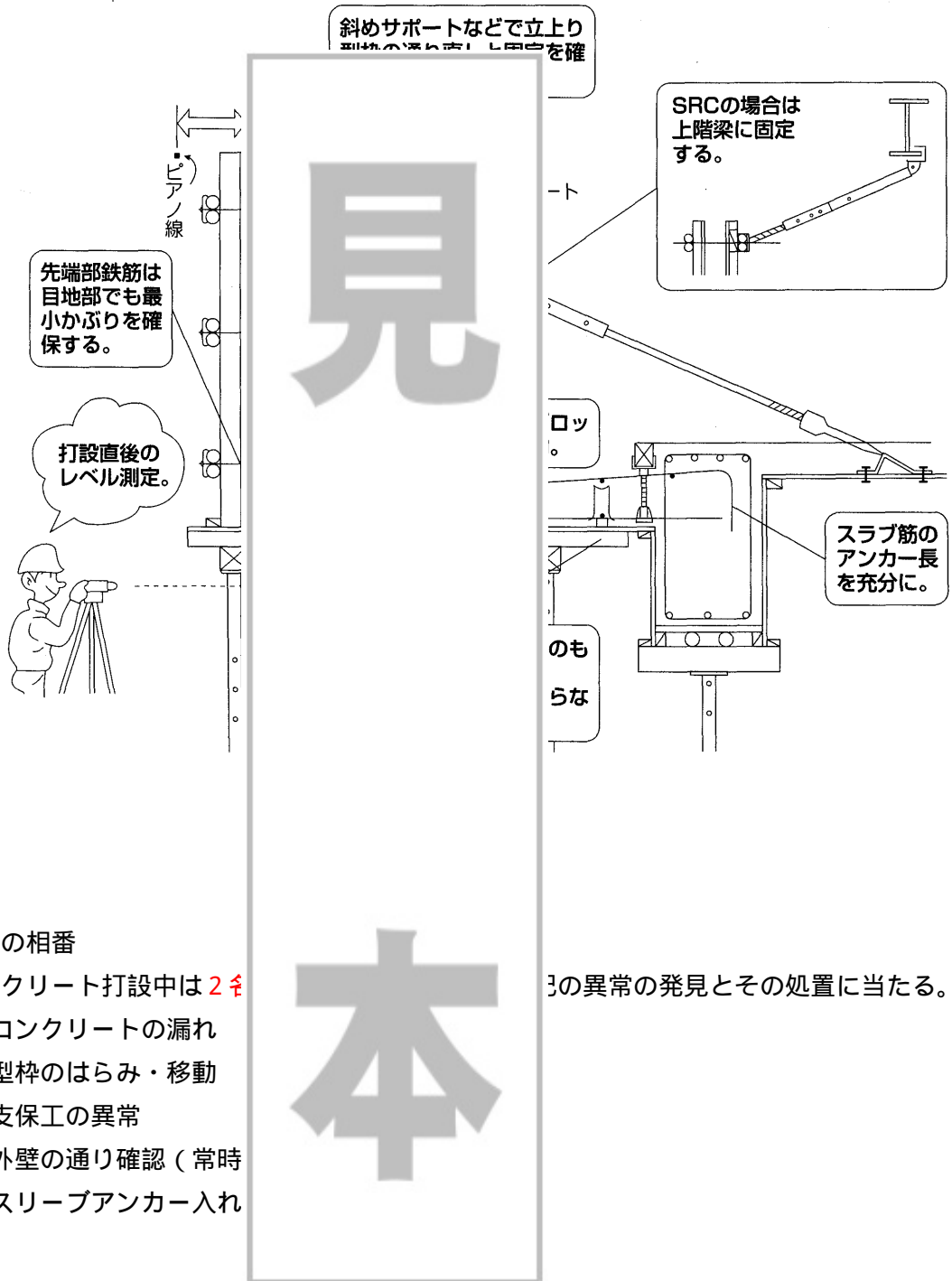
等を使用)

e . 階段

階段型枠施工要領



f . 腰手摺り壁



5) 打設中の相番

- a . コンクリート打設中は2名
- (1) コンクリートの漏れ
 - (2) 型枠のはらみ・移動
 - (3) 支保工の異常
 - (4) 外壁の通り確認 (常時)
 - (5) スリーブアンカー入れ

3)の異常の発見とその処置に当たる。

型わく支保工の組立て等	令6条 14号	安規 246	組立、解体（除く 建築物の柱、壁、橋脚、ずい道アーチ、側壁）	安規 247
	事業者は、型枠支保工の組立て等作業主任者に、次の事項を行わせな 1 作業 2 材料 り際 3 作業	<p data-bbox="678 555 917 833">見</p> <p data-bbox="965 495 1444 674">を直接指揮すること。 具及び工具を点検し、不良品を取 冒の使用状況を監視すること。</p> <p data-bbox="678 1400 917 1684">本</p>		